

3 年次編入学の有効性 - 筑波大学知識情報・図書館学類の場合 -

高木 亜里沙

日本の4年制大学は平成25年度の時点で782校あり、中でも編入学を実施している大学は596校に及ぶことから、日本の大学では編入学は活発に行われていることがわかる。しかし、卒業後の進路や卒業後の満足度についての研究は少なく、図書館情報学の編入生に関する研究は無い。本研究では、筑波大学知識情報・図書館学類の編入生と1年次から在籍していた学生を比較しながら、編入生の実態と卒業後の実態を調査し、編入学前の編入学の目的が達成されているか、満足度などを明らかにすることで、上記学生に関する編入学制度は有効に働いているのかを明らかにするものである。上記学類における、編入生の満足度や筑波大学に在学中・卒業後の生活の実態を明らかにすることができれば、情報・図書館学類への編入学を考えている人に対して、自分の将来のために編入学は有効であるかを考える手がかりを与えることができる。

調査は、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の3年次編入生(卒業生)・3年次編入生(在籍中の学生)・1年次から在籍していた卒業生・1年次から在籍している3・4年次の学生を対象とし、Web アンケートを実施した。筑波大学知識情報・図書館学類への入学動機/編入動機や生活の満足度等についての質問を集計・分析した結果、高専出身の3年次編入生の方が、短大・他大学・社会人出身の編入生よりも、筑波大学へ編入後の生活の満足度が高く、さらに、3年次編入生よりも1年次から在籍している学生の方が、筑波大学での生活の満足度が高いということが明らかになった。しかし、卒業後の生活の満足度は3年次編入生の方が1年次から在籍していた学生よりも満足度が高い傾向にあった。3年次編入生は、取得しなければならない単位や授業の多さや、他分野を学んでいた学生にとっては、新たに数学やプログラミングを学ぶ苦しさなどカリキュラムに対する不満を持っているが、新しい分野を学ぶことで視野が広がった・新たな人間関係を築くことができた・就職活動の際に編入学が有利に働いたことによって、編入学自体には満足していることが見受けられた。卒業後の生活の満足度については、3年次編入生は目的意識をもって編入を希望しており、卒業後の進路を考えて編入するので、1年次から在籍していた学生と比べて希望通りの進路に決まり、満足度が高くなったということが考えられる。以上のことから、3年次編入学は有効に働いていると言える。

今回の調査では、筑波大学知識情報・図書館学類を対象を限定しているが、編入学の全体像を明らかにするには、今後他の分野における調査を進める必要がある。また、調査を行う際のアンケートの実施人数や質問内容を検討することが、今後の課題として挙げられる。

(指導教員 池内 淳)